

## 「成城國文學論集」

<b>【第四十一輯】</b>	<b>2019年3月 発行</b>
山田 尚子	趣旨
大谷 節子	狂言「拄杖」と『無門関』第四四則「芭蕉拄杖」
宮崎 修多	服部南郭の白詩受容について
池田 一彦	南新二『福笑ひ』寸猫
山田 尚子	伝藤原良経筆「仮名新楽府」断簡について
小林 真由美	東大寺諷誦文稿注釈〔六〕—232行～301行—
上野 英二	源氏物語と長恨歌 其九
<b>【第四十輯】</b>	<b>2018年3月 発行</b>
小林 真由美	東大寺諷誦文稿注釈〔五〕—168行～231行—
上野 英二	源氏物語と長恨歌 其八
大谷 節子	浅野太左衛門家旧蔵『徒歌授受伝』『能楽余録』解題と翻刻
<b>【第三十九輯】</b>	<b>2017年3月 発行</b>
上野 英二	日本第一の古典 古今和歌集
大谷 節子	狂言「かくすい」考
宮崎 修多	杏枇雁信
池田 一彦	嘲世庵喜楽『滑稽諧謔呆た浮世』書き抜き
山田 尚子	「詩」と「酔」の空間
小林 真由美	東大寺諷誦文稿注釈〔四〕—123行～167行—
上野 英二	源氏物語と長恨歌 其七
<b>【第三十八輯】</b>	<b>2016年3月 発行</b>
小林 真由美	東大寺諷誦文稿注釈〔三〕——80行～122行——
上野 英二	源氏物語と長恨歌 其六
<b>【第三十七輯】</b>	<b>2015年3月 発行</b>
小林 真由美	東大寺諷誦文稿注釈〔二〕 ——41～79行——
上野 英二	源氏物語と長恨歌 其四・其五
池田 一彦	醉月仙史『油断大敵吃驚叢談』漫ろ書き
<b>【第三十六輯】</b>	<b>2014年3月 発行</b>
宮崎 修多	序にかえて
小島 孝之	小島孝之の自叙略歴ならびに著述目録
小島 孝之	説話を読み解く —宇治拾遺物語の戦略—
小林 真由美	東大寺諷誦文稿注釈〔一〕 —1行～40行—
上野 英二	源氏物語と長恨歌 其二・其三
池田 一彦	菊亭静『滑稽新話明治流行噓八百』瞥見
竹内 史郎	「Vヤシナイ」について —現代共通語における取り立て否定形式の文法化—
<b>【第三十五輯】</b>	<b>2013年3月 発行</b>
宮崎 修多	後藤昭雄先生をおくりたてまつることば
後藤 昭雄	成城大学での五年半
小林 真由美	水の中の月 —『東大寺諷誦文稿』における天台教学の受容について—
上野 英二	源氏物語と長恨歌 其一
池田 一彦	南柯堂夢笑道人『決闘状』ヲ読ム
小島 孝之	成城大学所蔵古筆手鑑『もゝちどり』概要
<b>【第三十四輯】</b>	<b>2011年3月 発行</b>
上野 英二	葦屋のさとしるよしゝて(承前) —伊勢物語のあそび—
小島 孝之	某家所蔵古筆切等について(続)
池田 一彦	斎藤緑雨「鶉網」改稿に関するノート
後藤 昭雄	源順の詩序一首—『文選』受容の一例—

李 銘敬	遼代高僧非濁の行状に関する資料考(一) —『奉福寺仏頂尊勝陀羅尼幢記』について—
<b>【第三十三輯】</b>	<b>2010年3月 発行</b>
小林 真由美	『東大寺諷誦文稿』の「母氏」について
小島 孝之	某家所蔵古筆切等について —中院切・小松切・長柄切その他—
宮崎 修多	風浪散人残瑩
池田 一彦	大久保夢遊『文明開化地獄極楽一周記』を巡って
後藤 昭雄	『全経大意』と藤原頼長の学問
<b>【第三十二輯】</b>	<b>2009年3月 発行</b>
宮崎 修多	工藤力男先生を送る
工藤 力男	まなびこしかた 附著述目録
小林 真由美	中有と冥界—『日本靈異記』の蘇生説話—
小島 孝之	古筆切の中の連歌切二種について
池田 一彦	『山月記』残照
後藤 昭雄	日本の古代の文献と中国口語
<b>【第三十一輯】</b>	<b>2006年3月 発行</b>
宮崎 修多	朽尾先生を送るの序
朽尾 武	人生七十 仕を致め候
小林 真由美	『日本靈異記』の異類婚姻譚—神話から仏教説話へ—
上野 英二	葦屋のさとしるよしにて—伊勢物語のあそび—
小島 孝之	怪異の語り方—『今昔物語集』巻二十七を中心に—
宮崎 修多	『石城唱和集』寸断 <下巻の部>
池田 一彦	『変窟蟻の世界』の世界—一名 痴蟻神礼讃—
工藤 力男	和名抄地名新考 (五)
<b>【第三十輯】</b>	<b>2005年3月 発行</b>
朽尾 武	明・蔣應鎬畫『山海經』續 —明刊本と和刻本—
<b>【第二十九輯】</b>	<b>2004年3月 発行</b>
朽尾 武	明・蔣應鎬畫『山海經』— 明刊本と和刻本—
池田 一彦	石川鴻斎『夜窓鬼談』に係る二三の書誌的事項について
<b>【第二十八輯】</b>	<b>2002年3月 発行</b>
上野 英二	渡河の情景—伊勢物語ノート—
朽尾 武	成城大學圖書館蔵『怪奇鳥獸圖卷』における鳥獸人物圖の研究稿
池田 一彦	斎藤緑雨の談話「帝室と文學」 —『斎藤緑雨全集』補遺—
<b>【第二十七輯】</b>	<b>2001年3月 発行</b>
小林 真由美	立夏のほととぎす—家持と暦—
朽尾 武	京大本紫明抄 天理本河海抄 引用漢籍注考證稿〔帚木〕 中
上野 英二	光源氏須磨の日記 —源氏物語の文学史制覇—
池田 一彦	南新二・投書の粗描—明治十五、十六年—
工藤 力男	<被枕詞>考
<b>【第二十六輯】</b>	<b>1999年3月 発行</b>
小林 真由美	百石讚嘆と灌仏会
朽尾 武	京大本紫明抄 天理本河海抄 引用漢籍注考證稿〔帚木〕 甲
上野 英二	ハーバード大学美術館所蔵 源氏物語須磨巻・蜻蛉巻について(坤) —付 翻印蜻蛉巻—
兵藤 裕己	座頭(盲僧)琵琶の語り物伝承についての研究 (三) —文字テキストの成立と語りの変質—
<b>【第二十五輯】</b>	<b>1997年3月 発行</b>
工藤 力男	おくることば
朽尾 武	京大本紫明抄 天理本河海抄 引用漢籍注考證稿 桐壺 (三)
上野 英二	ハーバード大学美術館所蔵 源氏物語須磨巻・蜻蛉巻について(乾)

上野 英二	一付 翻印須磨巻一
宮崎 修多	『石城唱和集』寸断 <複製の部>
工藤 力男	語源俗解考
石原 千秋	主婦の記号学
池田 一彦	『檸檬』解説
小林 真由美	まなかひにもとなかかりて 一山上臣憶良思子等歌一首 并序一
兵藤 裕己	歴史研究における「近代」の成立 一文学と史学のあいだ一
伊藤 博之	年譜(戦前・戦中・戦後の学校生活の一証言) 伊藤博之教授 業績目録
<b>【第二十四輯】</b>	<b>1995年12月 発行</b>
山田 俊雄	近代の常用漢字 (二) 一森鷗外訳「玉を懷いて罪あり」の場合一 山田俊雄名誉教授 略歴・著述目録
<b>【第二十三輯】</b>	<b>1995年3月 発行</b>
工藤 力男	獻辭
伊藤 博之	月の鼠一譬喩経をめぐる問題一
朽尾 武	京大本紫明抄 天理本河海抄 引用漢籍注考證稿 桐壺 (二)
上野 英二	説話の生態の一例一更級日記に見る一
宮崎 修多	『石城唱和集』寸断 <上巻の部>
工藤 力男	如泥一名語記私解・続一
池田 一彦	斎藤緑雨の出発期・考
小林 真由美	智光曼茶羅縁起説話考
<b>【第二十二輯】</b>	<b>1994年3月 発行</b>
上野 英二	菅原孝標女と源氏物語
朽尾 武	京大本紫明抄 天理本河海抄 引用漢籍注考證稿 桐壺 (一)
宮崎 修多	学海双魚
<b>【第二十一輯】</b>	<b>1991年8月 発行</b>
上野 英二	更級日記と文学史
伊藤 博之	良寛における仏道と詩歌一「風流」の語をめぐる一考察一
小森 陽一	聴き手論序説 (二)
山田 俊雄	近代の常用漢字一「明治冠附集」の場合一
<b>【第二十輯】</b>	<b>1990年3月 発行</b>
山田 俊雄	献辞
尾形 侑	一漢詩人と子規の死
上野 英二	紫式部における日記と物語
伊藤 博之	花月の心一西行と芭蕉を貫くもの一
小森 陽一	聴き手論序説
東郷 克美	鏡花の隠れ家
朽尾 武	玉造小町子壯衰書異文考 (一)
山田 俊雄	近世常用の漢字一『西鶴置土産』の場合一 尾形侑教授 略歴・編著作目録
<b>【第十九集】</b>	<b>1988年7月 発行</b>
佐竹 昭広	『本朝二十不孝』私見
朽尾 武	玉造小町壯衰書研究續 一幸地嚙上詠之賦再考一
上野 英二	和漢混淆の記一方丈記考一
小森 陽一	『文学テキスト入門』私註
島村 輝	一前田愛さんの言い残したこと一
山本 芳明	
<b>【第十八輯】</b>	<b>1987年2月 発行</b>
山田 俊雄	近世常用の漢字 (四) 一『冠附若とくさ』の用字について一
朽尾 武	翻印 玉造小町子壯衰書七種 上 序の部
小森 陽一	横光利一における「速度」

小林 功	—文字と読者／エクリチュールの時空—
<b>【第十七輯】</b>	<b>1985年8月 発行</b>
山田 俊雄	近世常用の漢字（三） —『冠附かざみ磨』の用字について—
尾形 仵	鷗外「北条霞亭」史料目録—的矢文書・浜野知三郎 旧蔵文書—
小森 陽一	『浮雲』研究の今後—藤井淑禎氏の批判に答えて—
<b>【第十六輯】</b>	<b>1984年6月 発行</b>
中西 進	古事記抄—鵜葺草葺不合命神話—
尾形 仵	鶴岡市平田家蔵俳書解題目録
小森 陽一	『舞姫』試論
山田 俊雄	近世常用の漢字—『冠附かざし草』の用字—
<b>【第十五輯】</b>	<b>1983年5月 発行</b>
中西 進	古事記抄—天石屋戸神話など—
伊藤 博之	『徒然草』の有職故実的章段の問題点について
尾形 仵	鷗外「北条霞亭」史料 的矢文書目録稿
小森 陽一	他者の原像—「浮雲」における読者の位置—
<b>【第十四輯】</b>	<b>1982年3月 発行</b>
中西 進	古事記抄—須佐之男の涕泣神話など—
鈴木 日出男	『源氏物語』の心情語—第二部の光源氏に即して
山田 俊雄	色葉字類抄疊字門の語の注 「一詞」の意義(追加)
朽尾 武	和漢朗詠集私注引用漢籍考
<b>【第十三輯】</b>	<b>1981年3月 発行</b>
山田 俊雄	献呈のことば
高田 瑞穂	昭和初年代の川端文学
東郷 克美	「くつたくした「夜更け」の物語 —初期井伏鱒二について—
尾形 仵	鷗外「北条霞亭」未紹介書簡
伊藤 博之	親鸞和讃にみる抒情精神—宗教的人間の内面性—
鈴木 日出男	朱雀亭と光源氏—『源氏物語』ノート—
朽尾 武	中国美女伝稿 高田瑞穂教授 略歴・著作目録
<b>【第十二輯】</b>	<b>1980年3月 発行</b>
中西 進	古事記抄—黄泉国神話—
鈴木 日出男	赤人の叙景の構図
伊藤 博之	道心者の抒情—西行の発想の一側面—
尾形 仵	鷗外「北条霞亭」索引（続） —化政期—文人の生活資料—
山田 俊雄	『言海』の草稿の表紙についての調査報告
朽尾 武	類書の研究序説（三） —五代十国宋代類書略史承前—
<b>【第十一輯】</b>	<b>1979年3月 発行</b>
山田 俊雄	献呈の辞
池田 勉	桐壺の巻の制作について
栗山 理一	蕪村の生活と芸術
高田 瑞穂	朔太郎と犀星—悔恨人と所得人—
尾形 仵	北条霞亭年譜・考 付、鷗外「北条霞亭」原稿 北条霞亭年譜
伊藤 博之	茂吉における中世的なもの —西行・芭蕉の受容の問題をめぐって—
中西 進	古事記抄—国土創成—
山田 俊雄	「雑字類編」の掲出語中に見える字音語の概況 —江戸中期漢語資料として—
朽尾 武	類書の研究序説（二）—五代十国宋代類書略史— 池田勉・栗山理一両教授 略歴・著作目録
<b>【第十輯】</b>	<b>1978年2月 発行</b>
大山 俊一	坂本浩教授古希退任に際して

高田 瑞穂	「運命論者」私考
栗山 理一	日本文芸の系譜－戯笑の流域－
尾形 侑	鷗外「北条霞亭」索引
伊藤 博之	西行歌の享受者達
池田 勉	光源氏における老年の意識について
中西 進	万葉集の意義
山田 俊雄	漢語研究上の一問題 －仮名書きの場合の同定(Identification)について、特に「年はい」について－
朽尾 武	類書の研究序説 (一)－魏晉六朝唐代類書略史－ 坂本浩先生 略歴・著作目録
<b>【第九輯】</b>	<b>1977年1月 発行</b>
高田 瑞穂	日本近代文学の宿命・序説－「浮雲」考－
坂本 浩	「明暗」の終結－書かれざる部分の推定－
伊藤 博之	宗教詩としての「浄土和讃」
中西 進	古事記抄－仁徳記・履中記－
<b>【第八輯】</b>	<b>1976年1月 発行</b>
坂本 浩	「行人」の内在的問題－墮地獄の孤独－
高田 瑞穂	日本の象徴主義
伊藤 博之	西行における詩心と道心
中西 進	古事記抄－応神記－
三浦 佑之	浦島子伝承における異次元－物語発生論への一試論－
<b>【第七輯】</b>	<b>1974年11月 発行</b>
高田 瑞穂	「心境小説」論
坂本 浩	国木田独歩の新資料－遠山雪子の作品をめぐって－
伊藤 博之	西行の遁世と歌
池田 勉	玉かづら十帖における作者 (その二)
中西 進	古事記抄－景行記・仲哀記－
<b>【第六輯】</b>	<b>1973年9月 発行</b>
坂本 浩	正宗白鳥の深層心理－その原点と特質－
高田 瑞穂	「藪の中」論考
栗山 理一	俳諧の意外性
伊藤 博之	徒然草における青春の主題と老年の自覚
池田 勉	玉かづら十帖における作者
中西 進	古事記抄－神武記－
<b>【第五輯】</b>	<b>1972年4月 発行</b>
坂本 浩	『夢十夜』の理念と構想
高田 瑞穂	「食ふべき詩」考
伊藤 博之	妄念の文学－鴨長明私論－
中西 進	万葉集の編纂原理
<b>【第四輯】</b>	<b>1971年9月 発行</b>
山田 俊雄	漢字の定訓についての試論 －キリシタン版落葉集小玉篇を資料にして－
<b>【第三輯】</b>	<b>1971年3月 発行</b>
高田 瑞穂	『明暗』の世界－「一遍起つた事」の回折－
坂本 浩	『三四郎』の視点
栗山 理一	季の詞
伊藤 博之	『歎異抄』の文体の成立 (二) －弥陀の本願には老少善悪のひとをえらばれず－
池田 勉	桐壺の巻における高麗の相人の語をめぐって
中西 進	嘉摩三部作
<b>【第二輯】</b>	<b>1969年11月 発行</b>
坂本 浩	浪漫精神の一特質－マリア的なもの－
高田 瑞穂	鷗外における「文学と自然と」
栗山 理一	芭蕉俳論の構造
伊藤 博之	「歎異抄」の文体の成立－第一章第一文をめぐって－
池田 勉	源氏物語「六条御息所」造型の根拠

中西 進	憶良の渡唐
田中 克己	端午の節供
<b>【第一輯】</b>	<b>1968年11月 発行</b>
高田 瑞穂	『道草』の人生
坂本 浩	独歩文学の位相
栗山 理一	不易流行の説
福田 秀一	源承知歌口伝の考察
池田 勉	源氏物語「帚木・空蟬・夕顔」三巻の制作過程について
中西 進	続・万葉集の形成（下）－平安朝文献の意味－
山田 俊雄	漢字手写の場合の字形の変容について －楊守教旧蔵本将門記を資料とする調査の方法とその概略－
大藤 時彦	歌い骸骨